

本日は令和 2 年度のスタートの日に当たり、新しい仲間も迎え一言申し上げます。

昨年度については 12 月までの事業は順調に推移しましたが、本年に入り新型コロナウイルス感染症発生により 3 月 30 日現在可児市で新たに 60 代夫婦 2 人の感染が確認され、県内の感染者数は 22 人となり、いまだに収束の見えない状況となっています。長期間にわたり準備をしてきた事業は中止をせざるを得ず、式典等の縮小を含め極めて残念ですが、未知のウイルスと戦うには大きな犠牲が必要かもしれません。

富加町においても感染症対策第一弾として 3 月 2 日からの小中学校の休校に始まり、公共施設の閉鎖、式典の縮小、会議の中止・延期等の対策を 3 月末までとしたところですが、第 2 弾としてこれを 4 月 30 日まで延長し感染症対策を強化しているところです。今後もこの戦いは続く予想されますので覚悟をもって職務にあたって頂くようお願い致します。

私は平成 24 年 6 月に町長に就任以来、二期目の終わりとなりましたが、昨年 12 月議会での町長選挙に出馬の予定はありますか？の一般質問の答弁で町民に信を問う覚悟を決めたと決意表明をさせて頂きました。現在心身とも健康で万全の状態にあり、町政に対するモチベーションも極めて高い状態を維持できており、これまでの経験と知識を生かして、富加町の課題解決と一層の発展に向け、引き続き町政運営を担わせて頂けたらと考えており、身の引き締まる思いを抱きながら心新たに新年度を迎えたところです。

先ほどは 2 名の新規職員には町長室にて辞令を交付したところです。その際にはそれぞれの抱負をお聞きし、新たな時代の自治体の職員として大変期待しているところです。役場組織体制については 2 名の退職者と 2 名の新規職員の受け入れをおこない昨年同様定数上限の 76 名体制で臨むことになり、今まで以上の住民サービスが提供出来ると考えています。

本年度一般会計予算は昨年に続きの 30 億超えの予算となっています。現在の緊急的な課題を含め、未来を見据えた積極型の富加町らしさを出せる予算と考えています。過去 2 年間のふるさと納税に支えられた予算から、本年度はふるさと納税の有効利用を計る予算となっています。予算の趣旨を理解し適切な

執行に当たって下さい。

さて、本年は富加町第5次総合計画の五年目の年となり、第二期総合計画と合わせて後期計画を策定してゆくこととなっています。順調に進んでいる「ジャストミカライフ」のスローガンの下「みんなで創る 誰もが住みよい ちょうどいい町とみか」の実現について、基本理念としている「活力ある持続的に自立した自治体をめざす」を念頭に「オール富加」の体制で当たってゆかなければなりません。現在まで職員の皆さんが真摯な態度で業務を遂行していることにあらためて感謝するとともに、令和2年度についても新たな気持ちで富加町の目指すまちづくりに向かって全力で仕事にあたって頂きたいと思っております。

毎年お話しますが、職務内容の発展的見直しに取り組んでください。行政マン・行政ウーマンの誇りと自覚を持ち、コンプライアンスの重視は当然のこととし、住民サービスの向上の為には「いつも笑顔でさわやかに!!!」を決して忘れることなく、各自が実践して職務にあたって頂きたいと願っています。必ず今までと違った世界が見えてくるはずですよ。

また、富加町の働き方改革として職場の環境改善の為にもメンタルヘルスの向上の為にも特に長時間労働（残業）の自粛体制は継続してゆきたいと考えています。避けられない、やむを得ない残業は別として残業ゼロを目指して今年も継続して努力をお願いいたします。能率を上げて時間をつくり、仕事の質の向上を図り、その為の事前のシミュレーションを欠かさず、余裕をもって、自分の為にも家族の為にも時間を作って下さい。メンタルヘルス的にも良い影響を与えるはずですよ。

また、公務員として各自の目標をしっかりと持ち、全員が同じ意識・同じ理解で考える事の出来る職場を理想とし、職員同士の助け合いも忘れず職務に精励して下さい。このことは富加町役場のレベル向上に資するものと考えます。本年度もそれぞれ新しい目標を設定していただき、それに向かって職務を遂行してください。全員の能力が十分発揮されれば困難なことではありません。その達成のために特に幹部職員の皆さんの責任は重く、それぞれの課の勤務体制や日々の状況を常に心に留め対応して頂きたいと考えています。

最後に、忙しく厳しい1年になりますが、新型コロナウイルス感染症に負けることなく、健康には十分留意され、心に残る記念すべき1年になることを祈り、併せていっそうの飛躍を期待し、新年度にあたっての訓示といたします。

令和2年4月1日 富加町長 板津 徳次